

「事業名：浪江町をフィールドとした放射線研究・教育プログラム」 2020年度補助事業の実績・成果

弘前大学 連携市町村：浪江町

連携市町村との協定締結日：平成23年9月29日 現地拠点：双葉郡浪江町 浪江町役場健康保険課室内

事業のポイント

浪江町内をフィールドとして看護学及び放射線技術科学を専攻する学部学生及び大学院生に対する新たな教育プログラムを実施する。さらに、帰還後の住民や町職員の生活環境の改善・回復及び健康管理を目的とした調査研究を浪江町内において実施し、結果を住民に還元する。浪江町に居住されている住民のうち、独居男性高齢者をターゲットに社会参加を促す取り組みも実施する。また、こども園職員自身が放射線リスクコミュニケーションを実践するための基礎資料や浪江町民のための放射線リカレント教材を開発およびそれらを用いた教育を実践する。

今年度の活動実績

浪江町内において、以下の教育研究活動を実施した。(主なもの)

- ・ 浪江町職員への健康相談・リスクコミュニケーションおよび子育て中の母親への不安相談等の支援を実施。
- ・ 東京電力廃炉資料館、福島第一原子力発電所および東日本大震災・原子力災害伝承館の視察・見学。
- ・ フィールドワークできる回数が減ったこともあり、浪江町の軌跡等を記録した教材用動画の作成。
- ・ 本事業にて整備した浪江町内のモニタリングシステムを用いて放射線関連機器取扱企業も交え、計測実習を実施。
- ・ 動物感染症対策ハンドブックを地域住民へ配布、野生動物の感染状況について一連の調査結果を浪江町役場へ報告。
- ・ 夏季における河川水中の放射性セシウムの調査を実施。
- ・ 浪江にじいりこども園周辺の空間線量率データを基に放射線に関する基礎資料を作成。また、こども園職員が新規入職者に対して実施する基礎放射線教育時に使用できる「サーベイメータ取扱いに関するマニュアル」を開発。
- ・ 独居男性高齢者のコミュニティ参加促進のため、めんずサロンをリモート形式も取り入れながら実施。
- ・ AR技術を用いた新規開発放射線教育教材を用いて児童生徒から社会人・高齢者まで放射線教育を実施。



今年度の成果

看護学専攻分野では、福島第一原発および廃炉資料館を視察し、実際の廃炉作業行程や汚染水の処理、モニタリングの様子等を間近で学ぶことの大切さを述べる学生が多かった。また、浪江町の軌跡・様子がわかる教材動画を作成した。放射線技術科学専攻分野では、浪江町内の施設敷地内への放射性物質濃度のモニタリングシステムの設置が完了し、空間線量率と大気中放射性物質濃度の連続観測とデータ転送が可能になった。その結果、データを継続して取得し、解析を行うことで変動傾向について学生が検討できるようになり、環境放射線モニタリングの重要性を理解させることができた。帰還後の住民や町職員の生活環境の改善・回復及び健康管理を目的とした調査研究について、放射性セシウム調査は本事業を通じて各季節ごとのサンプリングができた。アライグマやアカネズミの感染状況を浪江町役場へ報告、動物感染症対策ハンドブックを各所へ役場を通じて配付した。独居男性高齢者をターゲットに社会参加を促すためのサロン実施については、事業期間を通じて継続参加いただいたケースが多く、開催ニーズを確認することができた。こども園職員自身が放射線リスクコミュニケーションを実践するための基礎資料の開発については、こども園付近で計測した空間線量率データに基づき資料を作成し、今年度は新たにサーベイメータの取り扱いに関するマニュアルを開発し、活用してもらった。放射線リカレント教材の開発について、今年度新たに開発したAR技術を用いた放射線教育教材を基に児童・社会人・高齢者に対して放射線教育を実施できた。

今年度は各分野とも総じて現地実習の機会が過去2年と比べ少なくなったが、リモートでの代替開催や、限られた実習機会の中で有効に事業を進めることができた。

	総参加人数
教員	31名
学生	44名
本学企画への参加者	142名
企業	9名